

学年	1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (80単位)	
区分	科目群	科目名(単位)	科目名(単位)		科目名(単位)		科目名(単位)			
必修科目	基礎科目	マクロ経済学入門(2) ミクロ経済学入門(2) 入門ゼミ(2) 情報リテラシー(2) 日本語表現(2)							10単位	
	ジェネリック スキル科目									
選択必修科目	選択必修①	経済と経済学の歩み(2) データから見た経済(2) 日本経済の仕組み(2) 統計学の基礎(2) 経済数学Ⅰ(2) 経済数学Ⅱ(2)							6単位 ※1	
	基幹科目	選択必修②	共通科目 マクロ経済学(4) ミクロ経済学(4) 財政学Ⅰ(2) 金融論Ⅰ(2) 国際経済学(2) 英書講義・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各2)							20単位 ※1
			経済分析 計量経済学Ⅰ(2) 景気変動論Ⅰ(2) 統計学(2) 経済学Ⅰ(2) 経済データ分析Ⅰ(2) 経済データ分析Ⅱ(2) 産業組織論Ⅰ(2)							
			政策 経済政策(2) 労働経済学Ⅰ(2) 社会保障論Ⅰ(2) 地方財政論(2) 環境経済学Ⅰ(2) 都市経済学(2)							
			国際経済 貿易論Ⅰ(2) 国際金融論(2) 日本経済論(2) 西洋経済史Ⅰ(2) 日本経済史Ⅰ(2)							
選択科目	演習		演習Ⅰ(2)		演習Ⅱ(通年4)		演習Ⅲ(通年4)			
	展開科目				共通科目 経済学特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各2)					
			経済分析 農業経済学Ⅱ 景気変動論Ⅱ 社会思想史 社会保障論Ⅱ 情報と不確実性の経済学Ⅱ 計量経済学Ⅱ 経済統計論			産業組織論Ⅱ 産連関分析 経済成長論 通論Ⅱ 経済学Ⅱ 経済学Ⅱ (各2)				
			政策 社会保障論Ⅱ 医療経済学Ⅱ 金融政策Ⅱ 環境経済学Ⅱ 金融論Ⅱ 銀行証券論 メデア経済学			文化経済学 財政政策 中小企業論Ⅱ 労働経済学Ⅱ と育経済学Ⅱ 財政学Ⅱ (各2)				
			国際経済 貿易論Ⅱ 開発経済論Ⅱ 日本経済史 多国籍企業論Ⅱ メリア力経済論Ⅱ 西洋貿易政策			国際マクロ経済学 アジア経済論 国際要素移動論 ヨーロッパ経済論 中国経済論 中部経済論 (各2)				
	経済関連科目	簿記Ⅰ(2) 簿記Ⅱ(2) 経営学(2) 歴史Ⅰ(2)	民法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 商法Ⅰ・Ⅱ 会計学Ⅰ・Ⅱ 国際法Ⅰ・Ⅱ 行政法 労働法 経済法 税法 歴史Ⅱ (各2)						44単位 ※2	
ジェネリック スキル科目	語学力	ビジネス英語Ⅰ(2) ビジネス英語Ⅱ(2) 時事英語Ⅰ(2) 時事英語Ⅱ(2)			イングリッシュ・スキル(2~4)					
	海外 経験				海外語学研修(2)					
					海外ビジネス英語研修Ⅰ(2)					
					海外ビジネス英語研修Ⅱ(2)					
	EXP				海外留学科目(8)					
			ロジカルシンキング(2) 戦略思考とコンセプト思考(2)		プレゼンテーションとコミュニケーション(2) キャリア・マネジメントⅠ(2) キャリア・マネジメントⅡ(2) インターンシップ・Ⅱ・Ⅲ(各2)					

※1 「選択必修①」及び「選択必修②」の区分において必要な要件を超過して単位を修得した場合、下段※2 「選択科目(44単位)」の要件に算入されます。

## 学部固有科目の目的と特徴

複雑化した現代社会では、国際的に通用する知識を身につけることが活躍の一步といえるでしょう。現代社会が刻々と変貌を遂げている中で、新しい知識を正しくかつ展望を持って習得することがますます必要であり、それを発展させていく能力も要求されています。こうした中で、経済学部では、経済学の専門的な知識だけでなく社会的に求められる一般的な知識や技術をバランス良く備えた社会人として、国際社会に通用する人材を育成する事を目標としています。これらの目標を達成するため、経済学部のカリキュラムでは、基礎科目から基幹科目、展開科目へと段階的かつ系統的な修得ができるよう配慮され、各学生の目的に合うよう、3つの履修モデルを提示して、それぞれの効果的な学修を促しています。

以下を参考に、主体的に学修計画を立て自己の目標に到達できるよう努めて下さい。

## 専門科目とジェネリック・スキル科目

経済学部の学部固有科目は、「専門科目」と「ジェネリック・スキル科目」から成ります。経済の専門知識と理論を学修するのが「専門科目」であるのに対して、情報リテラシー、日本語表現、語学力、海外経験、さらに社会人に求められる基礎的なスキルを身につけるEXP(エグゼクティブ・プログラム)からなるのが「ジェネリック・スキル科目」です。ジェネリック・スキル科目は、創造的で柔軟性に富んだ思考や自立性、チームワーク力、コミュニケーション力、論理的思考力、リーダーシップ、自己管理能力など、いずれも社会で求められる基本的な能力を育てるための科目で、修得した経済学の専門知識・理論を具体的に生かすための汎用な能力を養うために、経済学部が新たに導入したものです。

## 段階的履修と系統的履修

経済学部のカリキュラムでは、経済の基礎科目の充実を図り、経済の仕組みを正しく理解したうえで、基礎から、基幹、展開と段階的に専門性を積み上げる体系的なカリキュラムとなっています。また、個々の科目は相互の関連性により「共通科目」と「経済分析」「政策」「国際経済」の3つの科目群に分けられ、系統的な履修ができるようになっています。

1年次においては経済学の学修を始める上で必要とされる科目を修得します。「入門ゼミ」「情報リテラシー」「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」「日本語表現」は必修科目としてすべての学生が学修し、その他に1年次において学修しておくことが望ましい科目が選択必修科目として配当されています。2年次では、経済学の中心的な授業を集めた基幹科目のなかから選択必修科目として20単位以上の履修をします。3・4年次では、「経済分析」「政策」「国際経済」のそれぞれに関連する展開科目を中心に選択科目を履修します。また、2年次秋学期からは少人数で個別の専門テーマを学修する演習I・II・Ⅲが選択できます。

これらは「履修モデル」を参考に、各自の将来の目的と興味に沿った専門科目を選択して学修することになります。

## 履修モデル

経済学部における学部固有科目のカリキュラムでは3つの履修モデル「経済分析モデル」「政策モデル」「国際経済モデル」を提示して、体系的・整合的な学修ができるように編成されています。これらのモデルは、それぞれの専門的関心や将来の目標にあわせて、1年次から4年次まで専門科目とジェネリック・スキル科目をどのように学修すればよいかを、それぞれ例として提示するものです。これらの修得方法を参考にしながら、効果的な学修をして下さい。

ただし、この履修モデルはあくまでも参考モデルであり、各自の勉学の興味に応じて、各履修モデルに記載されていない科目や他学部開講科目を取り入れて履修計画を立てることも可能です。

## 演習科目について

演習は大学教育において最も重要視されている科目の一つです。演習では履修モデルで修得する講義科目とともに、少人数で個別の専門テーマを学習することにより、より深い経済学の修得が可能になります。そこでは学生自身が意見を述べ合い、学生が中心となって議論を重ねることにより必ず実りあるものとなっていきます。各自が最も関心のあるテーマを選び4年間の学習の集大成として独自の論文を作成することもできます。

## 学修目標・修得モデル

経済学部では学修の目安となる修得モデルを設定しています。下表を参考にしながら自身の修得状況をしっかりと把握し、4年間で卒業要件を満たすよう計画的な学修を心がけて下さい。また、目標GPA値を参考に学修の質的向上を目指すようにしましょう。

学年	セメスター	履修登録制限 単位数	単位修得 モデル	目標GPA
1年	第1セメスター	22単位	13単位	各セメスター 2.5以上
	第2セメスター	22単位	34単位	
2年	第3セメスター	22単位	52単位	
	第4セメスター	22単位	70単位	
3年	第5セメスター	22単位	88単位	
	第6セメスター	22単位	106単位	
4年	第7セメスター	24単位	116単位	
	第8セメスター	24単位	124単位	

## 経済分析モデル

マクロ経済学やミクロ経済学など経済理論は経済の諸現象を抽象的・理論的な枠組みで理解する大切な道具のひとつですが、同時に実際の経済で何が生じたか、生じているかを的確に理解する能力を養うことも重要です。私たちの周りには、たくさんの経済動向を示す情報があり、多くは経済統計データとして提示されています。これらの情報の収集、解析、判断について一定の方法があり、これらを修得しておくことは実社会で生活する上でひとつのアドバンテージとなります。

本モデルは、経済各分野の具体的なトピックスに共通する基本的な経済理論と、経済学史、経済思想史など歴史的理解や経済データの観察、分析に必要な科目をバランスよく学びたい学生のために提案されたものです。マクロ経済学、ミクロ経済学、財政学、金融論、国際経済学という経済学のコアとなる科目を中心に、経済データを通じた現実経済の理解を深めるための統計学、計量経済学、経済データ分析などが用意されています。

1年次は、基礎科目によって、経済学の土台を作り(専門科目)、また大学におけるスタディ・スキルを習得します(ジェネリック・スキル科目)。専門科目では、「入門ゼミ」「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」の必修科目に加えて、「経済数学I」、「データから見た経済」などの選択必修の科目から5科目を学修します。ジェネリック・スキル科目では、「日本語表現」「情報リテラシー」の必修科目と「語

学力」科目の中の1科目を学修します。以上、学部固有科目において22単位を修得します。

2年次は、基幹科目によって、経済学の理論・政策・統計のコアとなる科目を学びます。専門科目では、共通・経済分析科目群の中から選択必修8～10科目を学修します。加えて、秋学期には、自分が興味を持っている特定分野の研究テーマを4年次まで継続的に研究するために、「演習I」を履修します。また、ジェネリック・スキル科目では、「ロジカルシンキング」「戦略思考とコンセプト思考」によって、専門科目で得た知識をビジネスや政策遂行に活かす手法を身につけます。以上、学部固有科目において26単位を修得します。

3・4年次は、展開科目によって、自分の目標や関心に応じて各分野の政策をより専門的に学びます。専門科目では、経済分析科目群の中から8科目を学修すると同時に、「演習Ⅱ・Ⅲ」において自分のテーマに沿った研究をさらに深めていきます。ジェネリック・スキル科目では、2年次の「戦略思考とコンセプト思考」の発展科目である「プレゼンテーションとコミュニケーション」、および、就職支援科目である「キャリア・マネジメントI・II」「インターンシップI」を履修します。(公務員等、民間企業以外への就職を希望している人は、「キャリア・マネジメントI・II」の代わりに法律科目等を履修しても良いでしょう。)以上、学部固有科目において32単位を修得します。

## (予想される進路)

日々の経済動向を的確に把握できる能力が求められるシンクタンク、銀行・証券をはじめとする金融機関や各産業界のリーディング企業、公務員など。

	1年 基礎科目	2年 基幹科目	3・4年 展開科目	単位数
専門科目	マクロ経済学入門(2) ミクロ経済学入門(2)	マクロ経済学(4) ミクロ経済学(4)	農業経済学(2) 景気変動論Ⅱ(2) 社会思想史(2) 保険論(2)	50
	経済数学Ⅰ(2) 経済数学Ⅱ(2) データから見た経済(2) 日本経済の仕組み(2) 統計学の基礎(2)	財政学Ⅰ(2) 金融論Ⅰ(2) 国際経済学(2) 英書講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各2) 計量経済学Ⅰ(2) 景気変動論Ⅰ(2) 統計学(2) 経済学史Ⅰ(2) 経済データ分析Ⅰ・Ⅱ(各2) 産業組織論Ⅰ(2)	情報と不確実性の経済学(2) 計量経済学Ⅱ(2) 経済統計論(2) 産業連関分析(2) 産業組織論Ⅱ(2) 経済成長論(2) ゲーム理論(2) 交通経済学(2) 経済学史Ⅱ(2)	
		〈上記科目より20単位以上〉	〈上記科目より16単位以上〉	
	入門ゼミ(2)	演習Ⅰ(2)	演習Ⅱ(4) 演習Ⅲ(4)	12
ジェネリック スキル科目	日本語表現(2) 情報リテラシー(2)	〈EXP〉 ロジカルシンキング(2) 戦略思考とコンセプト思考(2)	〈EXP〉 プレゼンテーションとコミュニケーション(2) キャリア・マネジメントⅠ(2) キャリア・マネジメントⅡ(2) インターンシップⅠ(2)	18
	「語学力」科目の中から2単位			
単位数	22	26	32	80

注1 ■■■ 必修科目

注2 { } 基礎科目の選択必修科目

注3 □ 基幹科目の選択必修科目

## 政策モデル

政府は、直接的な経済活動を行うと同時に、家計や企業の経済活動の舵取りをするための間接的な活動を行っています。これらの政府の活動が経済政策であり、金融危機、少子化、社会保障改革など、今の日本経済が直面している課題は政策の果たすべき役割のウェイトが高いものばかりです。

本モデルは、「経済のあるべき姿とは何か?」「それを実現するためにはどのような政策が必要とされるのか?」「実際に政府はどのような政策を行っていて、それはどのように評価できるのか?」という問題意識の下で、政策的な観点から経済学を学びたい学生のために提案されたものです。財政・金融などの伝統的分野、環境・社会保障・教育などの今日的課題を含む分野、文化・メディアなどの新しい分野などにおける多くの科目が用意されていますので、各自の興味に基づいて履修計画を立てることが可能です。

1年次は、基礎科目によって、経済学の土台を作り(専門科目)、また大学におけるスタディ・スキルを習得します(ジェネリック・スキル科目)。

専門科目では、「入門ゼミ」「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」の必修科目に加えて、以下に挙げた選択必修の5科目を学修します。ジェネリック・スキル科目では、「日本語表現」「情報リテラシー」の必修科目と「語学力」科目の中の1科目を学修します。以上、学部

固有科目において22単位を修得します。

2年次は、基幹科目によって、経済学と政策のコアとなる科目を学びます。専門科目では、共通・政策科目群の中から選択必修8~10科目を学修します。加えて、秋学期には、自分が興味を持っている特定分野の政策を4年次まで継続的に研究するために、「演習I」を履修します。また、ジェネリック・スキル科目では、「ロジカルシンキング」「戦略思考とコンセプト思考」によって、専門科目で得た知識をビジネスや政策遂行に活かす手法を身につけます。以上、学部固有科目において26単位を修得します。

3・4年次は、展開科目によって、自分の目標や関心に応じて各分野の政策をより専門的に学びます。専門科目では、政策科目群の中から8科目を学修すると同時に、「演習II・III」において自分のテーマに沿った研究をさらに深めていきます。ジェネリック・スキル科目では、2年次の「戦略思考とコンセプト思考」の発展科目である「プレゼンテーションとコミュニケーション」、および、就職支援科目である「キャリア・マネジメントI・II」「インターンシップI」を履修します。(公務員等、民間企業以外への就職を希望している人は、「キャリア・マネジメントI・II」の代わりに法律科目等を履修しても良いでしょう。)

以上、学部固有科目において32単位を修得します。

### (予想される進路)

政策立案および実施主体である公務員、政策に関する知識が必要となる金融機関、公認会計士・税理士、教員など。

	1年 基礎科目	2年 基幹科目	3・4年 展開科目	単位数
専門科目	マクロ経済学入門(2) ミクロ経済学入門(2)	マクロ経済学(4) ミクロ経済学(4)	社会保障論II(2) 医療経済学(2) 金融政策(2) 環境経済学II(2) 金融論II(2) 銀行証券論(2) メディア経済論(2) 公共経済学(2) 文化経済学(2) 財政政策(2) 中小企業論(2) 労働経済学II(2) 法と経済学(2) 教育経済学(2) 財政学II(2)	50
	経済数学I(2) 経済数学II(2) データから見た経済(2) 日本経済の仕組み(2) 統計学の基礎(2)	財政学I(2) 金融論I(2) 国際経済学(2) 英書講読I・II・III・IV(各2) 経済政策(2) 労働経済学I(2) 社会保障論I(2) 地方財政論(2) 環境経済学I(2) 都市経済学(2)	演習II(4) 演習III(4)	
	入門ゼミ(2)	演習I(2)	演習II(4) 演習III(4)	
ジェネリック スキル科目	日本語表現(2) 情報リテラシー(2)	<EXP> ロジカルシンキング(2) 戦略思考とコンセプト思考(2)	<EXP> プレゼンテーションとコミュニケーション(2) キャリア・マネジメントI(2) キャリア・マネジメントII(2) インターンシップI(2)	18
	「語学力」科目の中から2単位			
単位数	22	26	32	80

注1 ■■■■■ 必修科目

注2 ■■■■■ 基礎科目の選択必修科目

注3 ■■■■■ 基幹科目の選択必修科目

## 国際経済モデル

日本の経済はいうまでもなく外国の経済と密接な関係を持っており、世界経済に大きく依存しつつ、今日の経済的な繁栄を築いてきました。そして近年では、日本経済の動向が世界の経済にかなりの影響力を及ぼすまでになってきています。グローバル化が進化した今日では、国際間での財・サービスや資本の取引も飛躍的に増大し、その中で日本経済が果たすべき役割も極めて重要なものとなってきています。国際社会の一員としての自覚をもって経済問題に対処するために、正確かつ論理的な国際経済の知識が今ほど求められている時代はありません。

本モデルは、国際的な視野に立って経済学を体系的に学びたい学生のために提案されたものです。国際経済学関連科目には、大別すると①ミクロ経済学の応用にあたる貿易理論、貿易政策、国際要素移動論など、②マクロ経済学の応用に当たる国際マクロ経済学、国際金融論など、③発展途上国の経済問題を扱う開発経済学、④日本経済を含む各国の経済事情およびその歴史、があります。中京大学経済学部ではこれらすべての分野を網羅的に開講しており、国際経済学に対する学生のニーズに完全に対応できる体制となっています。

1年次は、基礎科目によって、経済学の土台を作り(専門科目)、また大学におけるスタディ・スキルを修得します(ジェネリック・スキル科目)。専門科目では、「入門ゼミ」「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」の必修科目に加えて、選択必修の5科目を学修します。

## (予想される進路)

世界経済の動向に敏感かつ的確に対応が求められる銀行・証券などの外資を含む各種金融機関。海外との取引が活発な商社や各産業界のリーディング企業など。

	1年 基礎科目	2年 基幹科目	3・4年 展開科目	単位数
専門科目	マクロ経済学入門(2) ミクロ経済学入門(2)	マクロ経済学(4) ミクロ経済学(4)	貿易論Ⅱ 開発経済論 日本経済史Ⅱ 多国籍企業論 アメリカ経済論 西洋経済史Ⅱ 貿易政策	48
	経済数学Ⅰ(2) 経済と経済学の歩み(2) データから見た経済(2) 日本経済の仕組み(2) 統計学の基礎(2)	財政学Ⅰ(2) 金融論Ⅰ(2) 国際経済学(2) 英書講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各2) 貿易論Ⅰ(2) 国際金融論(2) 日本経済論(2) 西洋経済史Ⅰ(2) 日本経済史Ⅰ(2)	国際マクロ経済学 アジア経済論 国際要素移動論 ヨーロッパ経済論 中国経済論 中部経済論	
		〈上記科目より20単位以上〉	〈上記科目より14単位以上〉	
	入門ゼミ(2)	演習Ⅰ(2)	演習Ⅱ(4) 演習Ⅲ(4)	12
ジェネリック スキル科目	日本語表現(2) 情報リテラシー(2) 「語学力」科目の中から2単位	〈EXP〉 ロジカルシンキング(2) 戦略思考とコンセプト思考(2) イングリッシュ・スキル(2)	〈EXP〉 プレゼンテーションとコミュニケーション(2) キャリア・マネジメントⅠ(2) キャリア・マネジメントⅡ(2) インターンシップⅠ(2)	20
単位数	22	28	30	80

注1  必修科目

注2  基礎科目の選択必修科目

注3  基幹科目の選択必修科目

# 10 学部固有科目の履修上の注意点

問合せ先 教務課：名古屋 5号館1F

## 学科目の配当学年

学部固有科目は学年配当を実施していますので、上級学年の科目を履修することはできません。ただし、上級学年は下級学年に配当されている科目を履修することができます。

## 必修科目

必修科目は5科目10単位を修得して下さい。

## 選択必修科目

選択必修科目の区分は次のとおりです。

- ①1年生選択必修科目 6単位以上修得して下さい。
  - ②2年生選択必修科目 20単位以上修得して下さい。
- ※なお、それぞれの区分で必要な単位を超えて修得した場合は学部固有科目の選択単位として卒業所要単位に算入されます。

## 選択科目

選択科目は44単位を修得して下さい。

## マクロ経済学 ミクロ経済学

この科目は半期4単位で週2回開講します。学科目時間割表を参照し、履修登録の際には十分に注意して下さい。

## ゼミナール(演習)

演習I・II・IIIは選択科目です。

- ①2年生ゼミナール「演習I」の募集説明会を2年生春学期4月頃に実施します。詳細については、ALBOにて案内します。
- ②指定期間内に受講申込み手続きを行わなかった場合は履修できません。
- ③3年生より新規に「演習I」を申込みすることはできません。ただし、2年生において履修した「演習I」が不合格だった場合のみ指導教員の上承を得た上で3年生において「演習I」の再履修を認めることができます。同時に4年生より新規に「演習II」を申込みことはできません。ただし、2年生において「演習I」を修得し、かつ3年生において履修した「演習II」が不合格だった場合のみ指導教員の上承を得た上で4年生において「演習II」の再履修を認めることができます。
- ④2年生において「演習I」の単位を修得しなければ、3年生において「演習II」の履修登録はできません。また3年生において「演習II」の単位を修得しなければ、4年生において「演習III」の履修登録はできません。「演習II」のみ、「演習III」のみの履修や「演習I・II・III」を組み合わせるとの同時履修も認められません。
- ⑤2年生において「演習I」の単位を修得したものは、3年生において極力「演習II」の履修登録をしなければなりません。また3年生において「演習II」単位を修得したものは、4年生において極力「演習III」の履修登録をしなければなりません。
- ⑥原則として「演習I」「演習II」「演習III」は同一の指導教員とします。

## EXP(エグゼクティブ・プログラム)

※本プログラムの科目は積み上げ方式です。

EXP(エグゼクティブ・プログラム)とは、将来の企業幹部および上級公務員となる人材に求められる実践的なスキルの修得と各業界のリーディングカンパニーへの就職をめざした実践教育プログラムです。キャリア設計とジェネリック・スキル修得を有機的に組み合わせた授業が展開されます。プログラムの詳細は下表のとおりです。

	2年		3年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
EXP エグゼクティブ プログラム	「ロジカルシンキング」	「戦略思考とコンセプト思考」	「プレゼンテーションとコミュニケーション」	「キャリア・マネジメントII」
			「キャリア・マネジメントI」	

※公募型インターンシップはキャリアセンターのプログラムです。詳細はP81の「インターンシップI」を参照して下さい。

EXP(エグゼクティブ・プログラム)の5科目はすべて選択科目です。  
①2年生春学期「ロジカルシンキング」の申込み受付は、1年次秋学期定期試験期間中にALBOで行ないます。3年生春学期「キャリア・マネジメントI」の申込み受付は、2年次秋学期定期試験期間頃にALBOで行ないます。

- ②指定期間内に申込み手続きをしなかった場合は履修登録できません。
- ③本プログラムの各科目には定員が設定されています。履修希望者多数の場合、「ロジカルシンキング」は1年次終了時の総修得単位数及びGPA、「キャリア・マネジメントI」は2年次終了時の総修得単位数及びGPA等により選抜を行ないます。選抜結果は履修登録時にCUBICSで発表します。なお、申込みをした場合は原則として履修の取消ができませんので注意して下さい。
- ④「ロジカルシンキング」の単位を修得しなければ「戦略思考とコンセプト思考」の履修登録はできません。「戦略思考とコンセプト思考」の単位を修得しなければ「プレゼンテーションとコミュニケーション」の履修登録はできません。また、「キャリア・マネジメントI」の単位を修得しなければ「キャリア・マネジメントII」の履修登録はできません。

- 例) [1] 「ロジカルシンキング」(2年春)未修得⇒「戦略思考とコンセプト思考」(2年秋)は履修できません。  
[2] 「戦略思考とコンセプト思考」(2年秋)未修得⇒「プレゼンテーションとコミュニケーション」(3年春)は履修できません。  
[3] 「キャリア・マネジメントI」(3年春)未修得⇒「キャリア・マネジメントII」(3年秋)は履修できません。

⑤本プログラムの各科目は履修登録制限単位に含み、学部固有科目として卒業所要単位に算入されます。

## 履修者数制限

「経済データ分析I・II」「ビジネス英語I・II」  
「時事英語I・II」「産業連関分析」

下表科目は履修者数に制限があるため、抽選となります。抽選にもれた場合は修正期間に科目の変更を行って下さい。

	(春) 経済データ分析I (秋) 経済データ分析II	(春) ビジネス英語I (秋) ビジネス英語II	(春) 時事英語I (秋) 時事英語II	(秋) 産業連関 分析
履修者数 上 限	1科目あたり135名 ※45名×3クラス開講	1科目あたり60名 ※30名×2クラス開講		60名

## 経済関連科目

経済関連科目は学部固有科目一覧表に記載されている18科目です。  
これらの科目は履修登録制限単位に含み、修得した単位は学部固有科目として卒業所要単位に算入されます。

## 他学部開講科目(経営学部・総合政策学部)

経済学部生は下記履修条件に従って経営学部・総合政策学部開講科目を履修することができます。

※全学開放科目とは異なりますので注意して下さい。

## 《履修条件》

1. 年度によっては履修できない場合があります。履修できる科目は学科目時間割表の別表に記載されます。
2. 2年生以降に履修できます。
3. 両学部合計24単位まで学部固有科目の選択単位として卒業所要単位に算入することができます。
4. 初回の授業で履修者を制限する場合があります。履修を希望する学生は必ず初回の授業に出席して下さい。
5. 他学部開講科目の再試験は実施されません。

## 海外語学研修

- ① 本学国際センター企画・主催の海外セミナーに参加・修了し、課題レポートを提出することにより学部固有科目単位として認定され、卒業所要単位に含まれます。(認定)
  - ② 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。
  - ③ 4年生においては夏期のみが評価の対象になります。
- 募集時期や参加方法等については国際センターで確認して下さい。

## 海外ビジネス英語研修 I【1～3年生対象】秋学期実施

- ① 本学国際センター企画・主催の海外語学研修に参加・修了し、課題レポートを提出することにより学部固有科目として認定され、卒業所要単位に含まれます。(認定)
  - ② 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。
- 募集時期や参加方法等については国際センターで確認して下さい。

## 海外ビジネス英語研修 II【1～4年生対象】春学期実施

- ① 本学国際センター企画・主催の海外語学研修に参加・修了し、課題レポートを提出することにより学部固有科目として認定され、卒業所要単位に含まれます。(認定)
  - ② 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。
- 募集時期や参加方法等については国際センターで確認して下さい。

## インターンシップI(国内インターンシップ)【2～4年生対象】

- ① 一般企業・非営利団体にて、実務および実習体験を行ない、後日「研修報告書」及び「研修日誌」を提出します。
  - ② 一定の条件を満たすと「インターンシップI」として2単位認定されます。(認定)
  - ③ 希望者全員が実習を受けられるとは限りません。
  - ④ 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。
- 募集時期や参加方法等についてはキャリアセンターで確認して下さい。

## インターンシップII・III(海外インターンシップ)【2～4年生対象】

- 「インターンシップII・III」は一定以上の総合的な英語能力と相手先(企業)との調整などが必要となりますので必ず事前に国際センターで相談するようにして下さい。
- ① この研修に参加・修了し、課題レポートを提出することにより学部固有科目として認定され、卒業所要単位に含まれます。(認定)
  - ② 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。

## 海外留学科目

- ISEP加盟大学及び中京大学海外交流協定大学へ交換留学生として選抜派遣された学生ならびにセメスター留学で選抜派遣された学生が留学先大学で取得した単位については、原則として経済学部のカリキュラムにある科目に読み替えてこれを認定します。(認定)
- ① 上記読み替えができない科目の中で、経済学部が認めた科目については、学部固有科目「海外留学科目」として認定します。
  - ② 「海外留学科目」として認定できる単位の総数は8単位までとし、1単位、3単位などの分割認定も認めます。
  - ③ 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。

## イングリッシュ・スキル【2～4年生対象】

この科目は大学入学後に取得したTOEICのスコアを「イングリッシュ・スキル」として単位認定するものです。認定スコアの基準は下表のとおりです。

スコア基準	認定科目名	単位数
600	イングリッシュ・スキル(TOEIC600)	2単位
730	イングリッシュ・スキル(TOEIC730)	2単位

- ① 履修登録は不要です。また、履修登録制限単位には含みません。修得した単位は学部固有科目の選択単位として卒業所要単位に算入します。(認定)
  - ② 申請時に730以上のスコアを有する者は、「イングリッシュ・スキル(TOEIC600)」と「イングリッシュ・スキル(TOEIC730)」の合計4単位を同時に認定します。
  - ③ 単位認定申請期間は各学期の定期試験期間内です。単位認定までの流れは次のとおりです。
    - 1) 単位認定申請に関するお知らせをALBOで確認
    - 2) 提出書類：単位認定申請書 ※ALBOに添付します  
TOEIC スコア公式認定証  
(Official Score Certificate)の写し
    - 3) 認定結果は成績開示日以降にCUBICS で確認
  - ④ 認定申請の手続きは申込期間を必ず厳守して下さい。期間を過ぎたものはいかなる理由があっても一切受け付けられません。
- ※なお、認定機関の都合で公式認定証が当初予定されていた時期に発行されず、申請期間に間に合わない場合は、申請期間内にその旨を記載した理由書を単位認定書に添えて提出し、後日必ず公式認定書を提出して下さい。

## 再試験

学部固有科目の再試験は実施しません。

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20



## 履修相談会・履修アドバイス

経済学部では下記の通り「履修相談会・履修アドバイス」を実施しています。春学期開講前に、全学年「履修相談会」への参加が義務付けられており、成績不振者は、履修アドバイスを受けることも必要となります。経済学部教員が「履修相談シート」を用いてみなさんの単位修得状況や履修状況をチェックし、適切なアドバイスを行います。

## ■履修相談会

経済学部生は全員履修相談会に参加することが義務付けられています(なお、成績不振学生は履修アドバイスを受けること)。「履修相談シート」に単位修得状況や卒業後の進路の希望、興味のある履修モデル等を記入し、履修相談会に参加して下さい。実施日や「履修相談シート」の配布等についてはALBOでお知らせします。

学年	春学期	秋学期
1年	新入生ガイダンス期間(必須)	履修登録初日(希望者)
2年	4月初旬(必須)	
3年	演習Ⅱ【初回授業時】(必須) ※演習未履修者は履修登録初日(必須)	
4年	演習Ⅲ【初回授業時】(必須) ※演習未履修者は履修登録初日(必須)	

## ■履修アドバイス

単位の修得状況が著しく悪い場合、春・秋学期の開講前に履修アドバイスを実施します。履修アドバイスの対象とならないよう励んで下さい。対象者にはALBOでお知らせします。

<対象者の目安>

学年	セメスター	総修得単位数 <sup>※1</sup>	セメスター GPA <sup>※2</sup>	実施内容
1年	第1セメスター	14単位未満	または 1.0未満	経済学部教員が面談を行う。
	第2セメスター	30単位未満		
2年	第3セメスター	45単位未満		
	第4セメスター	61単位未満		
3年	第5セメスター	76単位未満		
	第6セメスター	91単位未満		
4年	第7セメスター	108単位未満		
	第8セメスター	124単位未満		

※1 総修得単位数は、履修登録制限単位数のおよそ7割を目安としている。

※2 セメスター GPAは、平均して「C」評価(合格最低ライン)を下回る場合(1.0未満)を対象としている。

★詳細はすべて事前にALBOでお知らせします。

## 全学開放科目

本学では、自分の所属学部以外の学部が開講している学部固有科目を履修・修得することができます。履修にあたっては履修登録制限単位に含まれます。修得した科目は、下記の表に従い卒業所要単位に含まれます。

## 対象科目

全学開放科目時間割表で確認して下さい。

## 履修方法

全学開放科目の履修希望者は以下の手順で履修の申し込みを行って下さい。

- ①教務課窓口で「全学開放科目時間割表」を参照し、履修希望科目を決定する。
- ②教務課窓口で「全学開放科目申込カード」を受け取り、必要事項を記入する。
- ③履修を希望するクラスの初回の授業に出席し、授業担当教員から履修の許可を得る(申込カードに授業担当教員の承諾サインをもらい「担当教員控」を授業担当教員に渡す)。
- ④申込カードの「教務課控」を教務課に提出する。  
※CUBICS履修登録、CUBICS履修登録修正はできません。
- ⑤申込み期間はALBOで確認して下さい。

## 単位認定

卒業所要単位としては下表のとおり認定されます。

学部	認定区分	単位数
文	学部固有選択単位	4単位 (4単位を超えて修得した単位は自由単位となります)
国際英語		
国際教養		
心理		
現代社会		
法		
総合政策		
経済		
経営		
工		
スポーツ科		

## 注意事項

- ①履修登録制限単位に含まれます。
- ②履修を希望する科目の開講学部を確認して下さい。
- ③教室変更・試験日程等の連絡事項は、開講学部のALBOまたはホームページを確認して下さい。
- ④開講キャンパス(名古屋・豊田)が異なる学部の科目も履修できますが、移動時間(約1時間)を考慮して履修計画を立てて下さい。
- ⑤全学開放科目の履修者に対しては、再試験を実施しません。
- ⑥休講・補講等は、ALBOで確認して下さい。

## 愛知県単位互換制度

愛知県内すべての4年制大学が加盟する愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」は、加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される様々な科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。

## 出願手続き

3月中旬に愛知学長懇話会ホームページにて、当該年度の「科目開設大学概要」「講義概要」等が公開されます。

ホームページに記載されている情報を参照し、所定の出願票(1科目につき1枚)に希望する科目等の必要事項を記入して、所定の期間内に教務課窓口へ提出して下さい。出願票は、愛知学長懇話会ホームページからダウンロードするか、教務課窓口で受け取って下さい。

出願票の提出期間は、年に1回4月上旬のみ(詳細はALBOで案内)です。受講可能対象学年は、1～3年生です。年間履修制限単位数は、4単位です。履修登録制限単位に含みません。

大学によっては募集定員や、出願票に記入された「志望動機」に基づいて受講者の選考が行われる場合があります。

受講料は無料です。ただし、科目によっては実験・実習等に必要となる実費について必要となる場合があります。また、他大学の科目と本学開講科目(既に修得の場合)が同じ内容である場合には履修をしても単位認定できないことがあります。

## 単位認定

単位互換履修生(特別聴講学生)は、履修許可を受けた科目を履修し、当該科目の試験に合格すれば本学の卒業所要単位として単位認定を受けることができます(下記の表参照)。成績は学期末に教務課にて通知します。通知時期はALBOにて連絡します。成績評価は、認定「N」とします。なお、再試験は実施しません。

	単位数	認定区分
文	4単位	全学共通選択単位
国際英語	6単位	
国際教養	4単位	フロート単位
心理	4単位	
現代社会	6単位	
法	4単位	全学共通選択単位
総合政策	4単位	
経済	4単位	
経営	4単位	
工	4単位	学部固有選択単位
スポーツ科	4単位	全学共通選択単位

## 履修手続き

出願者の受講の可否は、4月下旬に所属大学を通じてその結果が学生本人に通知されます。履修許可の通知を受けた学生は、科目開設大学の指示に従って所定の履修手続きを行うことになります。また、履修登録日程の関係上、科目開設大学において履修者決定までの間、その授業の仮受講が認められていますので、出願票のコピー(本人控)を携帯し、仮の受講票とすることができます。

## 身分について

履修手続きを完了した学生は、科目開設大学で「単位互換履修生」または「特別聴講学生」となります。科目開設大学によっては身分証明書が発行されます。単位互換履修生(特別聴講学生)は、科目開設大学の施設(図書館等)を利用することができますが、科目開設大学のルールを良く理解しそれに従った行動をして下さい。

## 単位互換履修生(特別聴講学生)となった学生への連絡

単位互換履修生(特別聴講学生)となっている大学の休講等の連絡については、ALBOの「お知らせ」で連絡します。